

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200150		
法人名	有限会社在宅介護お世話宅配便		
事業所名	グループホーム お茶ばたけ		
所在地	唐津市東山801-280		
自己評価作成日	平成29年9月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年9月22日	外部評価確定日	平成29年10月17日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業者では「地べたからの介護」「茶ばたけ合唱団」「足裏トリートメント」「幼老共生」に取り組んでいます。「地べたからの介護」では日本の生活様式「畳の生活」を基本とし、ベッドやテーブル等をなるべく使用せず、日常生活の中で自然と全身の筋力やバランス感覚の維持、地べたで生活することで自分の行きたい場所へ自分で自由に安全に移動ができ転倒防止にもつながります。「茶ばたけ合唱団」では手指、腕、口を使って手話や合唱をしていただく事で、精神の安定や生活の活性化、お客様同士の関係づくりと大きな成果を結んでいます。「足裏トリートメント」では足の裏や甲、ふくらはぎを揉むことで、体全体の血行を良くし、臓器の活性化、下肢のむくみ解消、リラックス効果を図っています。「幼老共生」では当社の唐津こども塾の子供達との交流を行っています。認知症のお客様にとって進行を穏やかにする。昔、子育てをしてきた母性・父性本能を引き出し生きがいを見つけることができる。子供達にとって、お客様から「優しい心」とともに「生きる知恵」を教えてもらい、賢く成長する。高齢者も子供達もスタッフも共に生きることで相乗効果が生まれています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

職員は出勤する玄関で「ただいま」と挨拶し、利用者からは「おかえり」と迎えられる。会話も多く、エプロン姿とともに過ごす利用者もひとりではない。通常、歳を重ねるごとの体力の低下は否めないところだが、「地べたからの介護」により逆行している面も見られる。次に特筆すべきは「いつもと違う」に気付くケアである。職員は、一緒に住む家族であれば当たり前のことだと至って平静だが、利用者に寄り添ったケアなればこそである。更に、現在も現場に出ている代表者は、「様々な場面での経験こそ優れた技量となり、利用者が最期を迎える時には必要な人であれ」と職員に伝え、機会も作っている。若い管理者には、人生の先輩である利用者や、職員の意見にも教えを乞う姿勢がうかがえ、それはチームワークの良さとなって表れている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“関わり合って育ち合おう”をスローガンとした会社理念を、リビングルーム内に掲示している。又、毎月開催しているスタッフ勉強会で会社理念の唱和を行い、職員全員で共有化と実践に取り組んでいる。	法人には二つの理念がある。ひとつは全体で統一している基本理念であり、もうひとつはグループホームとして掲げている会社理念である。どちらも代表者が創り上げたもので当初のまま変更はない。溢れる想いを分かり易く表した理念である。機会あるごとに意味を伝えていくという意識の付け方は、職員のアイデアで始まった「ありがとうカード」にも表れている。職員は、想いを持ってケアに向き合えば自ずと工夫も生まれることを学び実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加やグループホームの行事への参加を呼び掛けている。また、地区総会や地区行事の清掃活動に参加している。	自治会に加入しており、地区の清掃活動等にも積極的に参加している。茶畑が広がる長閑な集落にあり、戸数も多くはない地域で事業所の存在は大きい。恒例行事の夕涼み会には近隣住民も招き、毎年楽しみにしているとの声も聞かれる。地域の一員として、回覧板や運営推進会議の折にも情報はもたらされ、見守りや連絡を頼める関係も築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議の中で認知症の症状や支援方法をはじめ、高齢者虐待や感染症予防など、資料を基に説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、地域運営推進会議を行い、事業所からの報告事項の他、利用者ご家族や地域からの意見・唐津市からの提言について話し合いを行っている。また、徘徊や災害時の協力をお願いし、体制を整えている。会議の内容についてはスタッフ会議等で報告し、日常のケアに活かしている。	会議メンバーの出席率が高い。市担当者は代理となっても出席者を出している。会議は約一時間を要し、事業所からの報告に終始することなく、メンバーからの率直な意見も貰えるよう心掛けている。話題となった甘酒効果を試そうとするなど、些細なことでも前向きに活かそうとする姿勢もある。当外部評価の結果も報告する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者へ運営や制度に関する疑問等をその都度確認する事で連携を取っている。また、地域運営推進会議地域運営推進会議で意見、提言、感想等をいただき情報交換をしている。	運営推進会議メンバーでもあり普段から顔見知りである。問い合わせ等があればまず電話をし、ケースによっては直接訪ねることもある。担当部署に法人内の職員が出向しているため窓口としても機能している。担当者とは実直に対応してもらえる関係が築けている。また、月に一度、介護相談員の訪問もあり、利用者と事業所の橋渡し役として期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修において繰り返し知識の習得に努めており、身体拘束は行っていない。また、リビング内に身体拘束の指針を掲示し、スタッフの工夫次第で身体拘束を行わずにケアが出来るように、常に目を通すようにしている。	指針があり、入居時に説明もしている。社内研修では同じ内容を複数回行うことで全ての職員が受講できている。日中は玄関や居室のサッシ戸にも施錠はない。仮に外へ向かう利用者があれば納得するまで暫く一緒に歩くというのが基本である。事業所は、台所からリビング、その先の玄関、また方向を変えれば各居室も見渡せる設計となっており、職員の見配りと気配りによって安全で自由な生活が支援されている。もし不適切なケアがあれば、全体の課題として受け止め、改善する流れとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や社内研修において、知識の習得や道徳性の向上に努め、虐待を行わない。さらに、虐待が見過ごされないよう防止に努めている。また、日々のケアの中では、常にお客様を敬う態度、丁寧な言葉使いを心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を受けている方はいません。職員は社内研修を受けて知識の習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者並びにご家族へ、分かりやすい言葉で説明を行い、不安や疑問点等に答え、十分な理解・納得をいただいたうえで同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置し、意見や苦情を受け付けている。また、お客様やご家族との日々の関わりの中で、意見や苦情を聴取できるよう努めている。収集・聴取できた意見・苦情は会議等で職員全員に伝達・共有し改善策を講じている。	家族の来所は多い。意見箱を置いているが投稿はなく、直接会える機会を大切にしている。家族に打ち解けてもらえるよう努めながら、更には家族の健康にも注意を払っている。遠方であったり、来所が少ない家族へは電話で近況報告をしている。事業所の外に苦情や相談の窓口があることは書類に明記され説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から気軽に意見や提案をできるような関係づくりに努めている。会議等の中でも意見や提案を受けようとしている。会議等で出た意見・提案はすぐに解決できるように努めている。	月一回の職員会議は十九時半から約二時間、休みの職員も参加して開かれている。限られた時間をスムーズに進めるため、予め内容を周知しておくこともある。職員には日頃から自由な発言を促し、また、互いの意見にも耳を傾けている。現場の声は法人上部にも届けられ活かす体制もある。管理者としては、働き易い職場であるように配慮も必要で、職員とのコミュニケーションは特に大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、努力や実績を評価する機会を設け、処遇に反映するようにしている。また賞与等で運営者自らが職員に手渡し、相談や悩みを受ける機会を設け、反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、会社内勉強会やGH勉強会を開催し、ロールプレイや講義等で職員の知識や技術を、向上できる機会を確保している。また、幹部研修会や外部研修会にも参加できる機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会参加や施設の見学・視察者、実習の受け入れ、会社内の他事業所と交流の機会を持ち情報交換を行っている。そこで得られた情報は、会議等で職員間で共有し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には本人及びご家族との事前面談を数回行い、本人・家族等の想いや要望を把握するように努めている。また、あわせて当事業所の会社理念や特徴、サービス内容等を説明し安心して利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には本人及びご家族との事前面談を数回行い、家族等の想いや要望の把握に努め、困っている事や不安な事を解消し、要望等に応えられるよう提案を行っている。また、あわせて当事業所についての説明を行い安心して利用できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、担当の介護支援専門員、主治医などからの情報を基に、本人・家族を含めた関係者と話し合い、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会社理念に掲げている「関わり合って育ち合おう」に基づき、相互関係の構築に努めている。掃除や洗濯、調理や盛り付け等日常生活の中でリハビリを兼ねた活動に参加していただき、長年の経験を活かし活躍することで、「役割」を獲得して頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も介護者の一人であるという事を理解していただき、会社・事業所・地域行事への参加を促し、職員とともに、ご本人を支援していけるように協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族へ定期的に電話したり、毎月、請求書と一緒に郵便物を郵送して、生活の様子をお伝えしている。また、家族の了承を得て、馴染みの方の来訪は自由に受け付けている。	入居までの人間関係の把握は、本人や家族はもとより担当のケアマネジャーや利用していた施設、病院等からも話を聞き情報を集めている。具体的な例として電話の取次ぎや年賀状、暑中見舞い状の手伝い、また、お盆やお正月の帰宅(宿泊も含め)を支援している。利用者が大切にしてきた繋がりが維持できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態、性格を理解把握し、一人ひとりが家族の一員としてお互いを支え合うような関係ができるよう、時には職員が間に入りサポートしている。職員だけではなく、誰かが傍にいてくれるという安心感を持っていただけるように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係を必要とするしないに関わらず、在宅介護支援センターや他のサービス事業者等との連携により、随時連絡・相談が受けられるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で本人様の思いや言葉を傾聴し、関わり合うことで言葉に表れない様子や仕草からも把握・実現できるように努めている。家族からも以前の生活状況等の情報収集を行い、本人様の培ってきたものを尊重しながら、支援を行っている。	職員が実践しているのは「いつもと違う」に気付けるケアである。利用者と一緒に作業をすることも多く、傍らで話し相手をしている光景はしばしば見られた。その話し方から脳梗塞に気づき、早い対応が取られたこともある。利用者の思いなど聞き取ったことは申し送りノートに記され、朝礼で伝えることもある。全員で共有し、ケアプランに反映させた例もある。介護のためではなく生活をささえるためという意識(パーソン・センタード・ケア)が浸透している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人や家族と事前面談を行い、関係者からの情報と併せて、お客様の生活歴や暮らし方を把握している。また、入居後においても本人や家族との関わりや日々の関わり合いの中で、情報を取り入れスタッフ間で共有し、本人様の思いを尊重しながら、支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から関わりを密に行い、何気ないしぐさや言動からも状況が把握できるように努めている。気付くことを意識し、日々の記録を基に、モニタリングやカンファレンスを行い、必要に応じて介護計画の追加・変更を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時には本人・家族・医師等、関係者より意見を伺い反映させるようにしている。また、毎月職員全体でモニタリングを行い評価、介護計画作成につなげている。	計画の見直し期間は三ヶ月毎としているが、変化があれば臨機応変に対応している。本人の希望は日頃のケアの中で、家族の想いは来所時の会話から把握に努めている。残存能力の維持は日常の動作をリハビリと捉え実践されている。「地べたからの介護」がそれである。また、家族アンケートの「計画の説明は受けたが話し合っていない」という回答を真摯に受け止める様子には事業所の謙虚さがうかがえる。担当者を決めるのではなく全員で9名をカバーしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに個人記録を作成し、日々の生活状況や状態の変化を記録している。職員間での情報共有を図り、介護計画作成・見直しの際の情報として活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望により、買い物や外出支援を行っている。また、手話を交えた合唱団等の、公の場で発表する機会を設け、練習した達成感や喜び、感動を感じられるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの就労継続支援事業所と交流したり、地域の方を含めた夕涼み会を毎年行っている。また、ボランティア団体の慰問や社内保育園と交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診(隔週1回)や定期的な受診を行い、体調管理を行っている。緊急時には適切な指示を受けられるように連携を取っている。	入居前からのかかりつけ医のもとへ通う利用者もある。往診等のメリットから協力医への変更希望があった場合も、事業所は丁寧な説明を行っている。受診に出掛ける際は職員が同行しており、その結果報告は当日中に行っている。馴染みの医師であったり、状況に応じて希望する医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、いつもと違う？等の早期発見に常に努めており、随時主治医又は看護師への状況報告を行い、指示を受けている。また、医療連携加算の導入により訪問看護師に定期的に訪問していただき、情報を共有し、支持・助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院前の正常時と異常時の情報を主治医に提供している。入院中は面会による本人の状態把握を行い、主治医に事業所の環境整備、医療連携等の受け入れ体制を相談した上で、早期退院を働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時書面により説明を行い、状態変化に応じて適宜、家族、かかりつけ医との話し合いを行っている。職員全体で勉強会の開催により共通理解を行っている。終末期生活のための同意書を基にケア方針を共有し、かかりつけ医の指示を受け看取りや通夜・葬儀まで行っている。了承をいただいたご家族には、葬儀に職員・他のお客様と一緒に参列、手話・歌でお見送りを行っている。	これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればその用意はある。入居時に説明をし、意向の確認等は行っているが、状況の変化に伴い何度でも話し合いを重ねる体制である。また、勉強会を開くことで職員をフォローし、訪問看護ステーションとの連携もある。本人や家族が安心して最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間社内研修計画の中に「緊急時対応」を取り入れ、年に1度勉強会・訓練を行っている。いつでも対応ができるようにマニュアル・緊急時連絡網を活用できるように工夫している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難・消火・通報訓練を消防署に依頼し立会いのもと行い、助言・指導を頂いている。地域運営推進会議で議題に取り上げ、地域の駐在員・民生委員に避難訓練の参加や、緊急時の協力要請を依頼している。	年2回の訓練には消防署も立会い、利用者も一緒に避難を体験している。夜間は想定のみで昼間の実施である。職員は消火器や火災通報装置の使い方も承知している。各居室には濡れ縁があり、そちら側から避難や避難済みの確認も出来る。非常食や水、寒さを凌げる物の備蓄もある。消防署から指摘等があれば速やかに改善され全員に周知もしている。今後、実際の夜間をまず職員だけで体験してみることも検討中である。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、利用者への言葉遣いや個人情報の取り扱いには十分に対応している。また、個人情報保護法については、書面による説明・同意を得ている。	利用者を総称する時はお客様と呼んでいる。これには親しき仲にも礼儀あり、初心を忘れないためなどの理由がある。敬語で接しながらも時には方言も聞かれ利用者や周囲の方を不快にさせることなく話が弾む様子には職員の技量も伺える。また、排泄や入浴介助の場面では立つ位置を考えたり、バスタオルを上手く使うなどの工夫によって羞恥心にも配慮したケアを行っている。更に、個人情報の取扱いに対する意識も高く、写真や名前の掲載等には入居時に承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を尊重し、想いや希望をうまく伝えることができない利用者には職員がサポートをし必要な支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	馴染みの生活を継続できるように一人ひとりのペースにあった時間が流れるように配慮している。随時利用者の希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日に1回は必ず鏡を見るようにしており、お客様が主体となり時候に合った衣服などの身だしなみを行うことができるように支援している。また、随時清潔感のある身だしなみができるように、職員が支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものや好みの物等を会話の中から聞き出したり、旬のものを献立に取り入れる他、お客様が栽培されている季節の新鮮な野菜を畑から収穫し調理に盛り込んでいる。食材の買物、調理、配膳、後片付けを職員と利用者と一緒にやっている。また、職員も同じ食事を同じ食卓と一緒に食べながら介助・見守りを行っている。誕生会には誕生月の方の好物を聞き、刺身や赤飯・寿司等を提供している。	利用者の好き嫌いやアレルギー有無の把握は出来ている。献立は食べたいものを探したり、畑の野菜や冷蔵庫の中身で考えている。一般の家庭と同じである。利用者の食欲は旺盛で、栄養価は法人の栄養士が計っている。掘りごたつ式のテーブルは利用者にとってほどよい高さであり、器も手元近くに置かれ食べやすくなっている。介助は最小限に止め、自分で口から食べることの大切さを実践している。座位を保ちながらの食事は、日頃の「地べたからの介護」により維持されている。普段、アルコールの提供はしていないが、行事の折には手作り梅酒が振舞われている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせ、食事量や水分量の把握・調整を行っている。必要な場合はかかりつけ医と相談し、量や内容の調整等に対応している。また、お客様個人で水筒を購入していただき、正確な水分摂取量を把握し、十分な水分量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者に適した口腔ケア、義歯の管理を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限り、トイレでの排泄を継続していただけるよう、排泄チェック表の作成や本人の排泄のサインを把握し自立排泄の支援やおむつ外しを行っている。また、時間ごとにさりげなくトイレへ誘導することで、オムツやパットの使用を最小限にするよう努めている。本人の不安や羞恥心、プライバシーへの配慮を心掛けている。	排泄に関して自立している方は一名のみである。日中は出来るだけトイレでの排泄を支援し、チェック表があることで予測と適切なケアが行われている。入居後にオムツ等から改善した例もあり、個人負担分の軽減にも繋がっている。トイレ内には手摺りの他、可動式ひじ掛けの設置もあり、自立を促す補助具としても役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の状態、食事、水分量を把握し、排泄チェック表とスタッフ間の伝達・情報共有にて便秘の有無を常に確認している。日常では十分な水分摂取と適度な運動の機会を提供している。また、便秘についての理解は職員個人、勉強会を通じて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的にすべてのお客様が、毎日入浴が出来るように対応している。また、利用者の生活習慣や希望に添えるように対応している。冬季など寒い時期や希望時には足浴も行っている。時には利用者2人で入浴をし皆様入浴を楽しみにされている。	入浴を拒む方は殆どなく、ほぼ毎日が入浴日である。寒い時期には足浴もプラスされる。シャンプー類は事業所で用意され、友人同士の入浴もある。浴室内の工夫では浴槽の淵を木製にしている点である。そこに座りながら体を回せばスムーズにお湯に浸かれる。まだバスボードという介護用品もない頃のアイデアである。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、見守る事もケアのひとつと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間、昼寝等できる限り本人のペースに合わせた利用者本位の生活を送れるようにしている。夜の安眠を誘うよう、毎日の戸外活動等、日中の活動機会を提供し、足裏マッサージや足浴も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬態を個人ごとに資料化することで随時閲覧・把握するように工夫し、変更があった場合には適切に情報を共有している。また服薬の確認、状態変化の確認、効能の確認を随時行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活習慣や馴染みのことを取り入れ、本人の能力に合わせた支援を行っている。また、季節ごとの行事や外出などにより楽しく気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて散歩や戸外での活動を心掛けている。利用者の希望に沿い、可能な限り外出支援を行っている。職員が困難な場合は家族に相談し外出している。	日差しを浴びることは体内時計を整え睡眠の誘導にも繋がる事を熟知している。目前に茶畑が広がる自然環境の中で、一日1回は靴を履いて表に、また、車椅子であっても必ず全員で合言葉に遠出のドライブも楽しんでいる。当日に決め出掛けることも多く、家族にとっては、訪ねて来たら留守という嬉しい行き違いもある。自己評価で「ほぼ全ての利用者が戸外の行きたい所へ出掛けている」と記したように外出を当たり前のこととして支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には本人の能力に合わせて管理を行っており、必要な時は随時使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に随時対応している。年賀状や暑中見舞い等できる限り本人に書いていただくようにしている。電話についても、希望により家族や知人に電話をかけ、話をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームは常に外からの自然光が差し込み、風邪も良く通り、一面のお茶畑などの自然が見渡せるようになっている。また、台所で料理している音や匂いがするなど家庭的な雰囲気の中で過ごすことができる。	利用者が一日の殆どを過ごすリビング。その特長は掘りごたつになっていることである。足を下ろし、ほどよい高さのテーブルがあり、横になりたい時は座布団の上にと思い思いの過ごし方である。掘りごたつからの出入りには全身を使うため日常的なりハビリ運動となっている。廊下の手摺りは敢えて付けず、努めて車椅子も使わず、利用者は自身の体を活かし生活している。直に床に触れることも多いため拭き掃除は万全で一日に数回は行っている。トイレや浴室もきれいに掃除され、嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態に合わせて、畳やベンチ、掘りごたつにて個々がのんびりくつろぐ事ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には使い慣れた家具や仏壇を持ち込んだり、思い出の品物を飾ることで、馴染みの空間を作るようにしている。	居室に持ち込む品物は火気等の危険物以外に制限はない。全て畳敷きである。家族には、自宅のように座って話が出来ると好評である。それぞれに持ち込まれた家具類と家族の写真等が飾られ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。布団の上げ下ろしでは職員の手を借りる場合もあるが、基本は、出来る事はまず自分でと見守りに努めている。家族が希望すれば宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には段差を解消し、手すりを付ける等の配慮をしている。居室前には入居者本人の写真やイラストを貼り、各自の居室を間違わないように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない